

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

ささゆり苑

日付 平成 21年 1月 8日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

『ゆったりとした空間で穏やかに暮らす』というモットーがこのグループホームの特長でもあり、この言葉を一つひとつのケアサービスを8年間という長い期間を通じて実施してきた管理者と職員のはつらつとした温かい姿を見せてもらっている。その姿は、利用者の顔・顔・顔…が鏡となって映っている。

まず、このホームを運営する母体は高梁市社会福祉協議会であるが、旧成羽町と社協成羽支所として役所の特長と現場職員の自由性をうまく調和させて運営しており、利用者とその家族の生活を支えていることがあげられる。旧中学校の敷地を利用して建てられたホームは9年前とは思えないグループホームの機能を発揮できる広々として木材をふんだんに使った施設である。逆に9年前だからこそこのようなスペースを使い、リビングゾーンとリクレーションゾーンと座敷ゾーン、そして、ゆったりとしたトイレと洗面所付きの居室が出来たのだろうと想像した。外部は運動場があった所なので広大な土地の中にある。アプローチや畑など十分にとれている。訪問の日の午後は、この畑に栽培されていたさつま芋の収穫をした。2種類のさつま芋を植えた畑に利用者が集まり、収穫をする人、見物をする人、掘り出された大きな芋を持って「でっかいなあ」「おいしそうなあ」と言いながら写真に収まってニコニコと笑顔一杯の利用者の姿だった。

次に、職員の質と量の豊富さだろう。1ユニットで9名(常勤3名、非常勤6)の配員であり、日中は4名が勤務していて、1対3以上のケアが可能になっている。又、歯科衛生士、歯科助手の資格者は3人も居て、口腔ケアに対する人材も豊富である。ケアマネージャーも全社協職員の中から選任される。母体の総括者もこの資格保持者であり、ホームの運営に強力な支援者である。このような職員達であるが、仕事場が山の上、特に成羽の山の上は雲の上、霧の中、雪の山という環境下で職員確保が難しいとされる中であるが、職員も安定しており、しかも資質にも恵まれ、全員が仕事に前向きな態度で従事している。

このような境遇である中で、費用がグループホームとしては一番安価ではないかと思う。家賃が16,500円/月、光熱水費が16,000円/月、食費が30,000円/月弱と格安であり、どこよりも家賃が安価なのが、本人や家族にとっては助かる。市からの助成もあるようだ。

利用者が要介護1~3と要支援2という比較的軽度な人を対象としているが、日頃のケアの質と利用者の行動の幅が広いため、症状の進行やADL機能低下が落ち着いていることも目を引く要素である。もう4年間訪問させてもらっているが、顔馴染みの方々も多く、私たちの事もよく憶えてくれていることも驚くばかりである。そして、利用者一人ひとりが、得意な能力を持ち続け、作品や仕事

特に改善の余地があると思われる点

ケアとサービスについて改善を要する点はないが、あえて言うならば、介護計画や記録類が簡素で効果のある日常の業務の柱として直結していけるシステムに仕上げたい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：利用者の方もこのホームを家庭・家族と思ってくれており、病院の受診に行っても「ただいま、帰りました」と皆さんに挨拶する。このホームで長年勤めた人も「皆さんと関わってほしい」と週1日はボランティアで手伝いに来てくれる。畑は市のシルバーボランティアで支えてくれている。このホームの目指す一面の現れである。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームでの生活は家庭でいた状態を維持し、「ここで生活できれば居心地が良い、雰囲気が良い、ここで最後まで居たい」と望まれる本人や家族の希望がある。職員は毎月のミーティングで目標を出して、皆で取り組み、共有した仕事をするよう努力している。利用者の話しをよく聞き、共感の気持ちを伝え、穏やかな生活をしてもらいたいと普通の人として接し方を心得ている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：建物と設備、外回りの環境に対し、ハード面で改善する必要はない。この施設の中で生活している利用者、それを支えている職員と地域のボランティアの人々の行動等、利用する人のソフト面からも広い空間のすべてを使いこなしているのでも申し分ない。</p> <p>2、全体的に見て…：リビングルームやリクリエーションゾーン、広い座敷、そして居室の広がる廊下や居室の中すべてに、このホームで利用者や職員が作った作品の展示場となっており、日頃の利用者が熱心に取り組む姿がこれらを見ると一目瞭然である。小学生も貼り絵の下絵と材料を準備して訪問し、利用者と一緒に作った貼り絵の作品も展示してある。日頃貼り絵をしていない利用者も小学生と一緒に一生懸命作ったそうだ。生け花に造詣のある男性利用者はホームのあちこちに生け花をして、ホーム空間に華を添えている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：利用者の若い時からのアセスメントを更に充実させていきたいと考えている。そして、利用者の新たな能力を引き出せるような挑戦を探していこうとしている。又、料理の下ごしらえやちぎり絵等、個々に意欲を見せられるよう声をかけて、ずっと能力が維持していけるよう支援を続けたいとしている。</p> <p>2、全体的に見て…：食べることは、生活の楽しさと健康管理上最も大切に考えている。利用者の希望を取り入れ献立を作り、利用者の誕生日に皆でお祝いをする。訪問の日も男性利用者の誕生日だった。又、利用者の食べやすい大きさ、柔らかさにも気を付け、特に長芋やオクラ等を使い嚙下しやすい工夫をしていて、いつまでも自力で食べられるよう心掛けている。新しく入所してきた人への対応については、ミーティングでしっかり話し合い、職員全体で共有した手法で支援していくようにしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：地域行事へ利用者も積極的に参加できるよう支援している。収穫祭や学校の発表会等へも参加した。</p> <p>2、全体的に見て…：運営推進会議は、地域代表、家族代表、利用者代表、民生委員、市役所職員が参加し、座敷でざっばらんな会議を開催している。地域とのつながりはホームの歴史の中で根付いてきたが、更にこの会議を通して地域との輪は広がっている。</p> <p>毎日、利用者はレクリエーションルームでお昼前の一時間以上の時間で体操したり、ボール遊びをして身体を鍛えている。そして皆で歌をたくさん歌う。利用者は殆んど憶えていて、力一杯楽しそうに発声している。この場所で運動会をして輪投げやパン食い競争をした時も闘争心を発揮したそうだ。ボール遊びも真剣に力一杯投げる、跳るの動きで年齢を忘れるチームワークである。</p>		